

- ・表紙「2023 夕涼みジャズコンサート」……p.1
- ・安曇野を知る 1 枚「日光泉小太郎」……p.1
- ・公民館講座
(豊科・穂高・三郷・堀金・明科) ……p.2,3
- ・新任公民館長あいさつ ……p.2
- ・地区公民館だより「町地区」 ……p.4
- ・私は一生懸命「降旗みつ子さん」 ……p.4



2023 夕涼み ジャズコンサート

穂高公民館は7月8日(土)に今年で10回目になる「2023 夕涼み ジャズコンサート」を開催した。

第1部はニュー・モダン・デュークスの演奏で、軽快なアップテンポの曲から優雅なスローテンポの曲まで8曲。第2部はニュー・

モダン・デュークスの演奏をバックに Y's Gem と嶋田敬三と YOKO によるボーカルで、軽快なラブソングから哀しい別れの歌まで10曲と最後にアンコールを1曲披露した。

エルビス・プレスリーの『Love Me Tender』や『Can't Help Falling In Love』などおなじみの曲を含めた多彩なジャズに、聴衆67人は、約2時間のコンサートを大いに楽しんでいた。

安曇野を知る 1 枚 日光泉小太郎

穂高神社の境内に日光泉小太郎像がある。泉小太郎は民話に残る人物で、大昔、安曇野に大きな湖があったときのこと、母犀龍の背に乗って岩を突き破り、湖の水を日本海へと流して、安曇野を肥沃な土地に変えたという。信州大学の研究では、今から約5千年前の大地震により巨大な古上高地湖が決壊して大洪水が起きた結果、松本市梓から安曇野市豊科にかけて安曇野にも大きな湖ができたと考えられている。



地区公民館だより 町地区公民館 (明科)

町地区は、明科地域の中央部に位置し、国道19号及びJR篠ノ井線の東側には明科中学校・明南小学校・明科体育館などの公共施設があり、中学校から明科駅へは1.5km徒歩15分程度の位置にあります。令和5年4月時点では196世帯が区に加盟し、約600人程度の地区です。

令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症の第1波以降、計画していた諸事業を中止・縮小せざるを得ない状況が約3年間に及びましたが、当地区公民館では、区との共催で、地区公民館内に存置している「延命地蔵尊」の祭事と人権講座を同時開催してきました。

公民館の前身として地蔵尊を祭るお堂があったそうで、区民が平安で長寿であることを祈願しているそうです。

本年5月からは、「5類への移行」ということで、様々な行事を再開・復活しようと取り組んでいます。以前のように戻すには難しい状況であります。

ご近所・お隣どうしの顔が見える関係は、地域力の向上に必要なと考え、様々な工夫をして、皆さんに“集いの場”を提供していきたいと思っています。

【町地区公民館長 横山 正】



私は一生懸命 降旗みつ子さん (三郷)

いつだって青春

「最近、夫をはじめ友人や周りの人達のおかげでここまでやれてきたんだ。とつくづく感じるようになった」と話す降旗さん。

「子どもたちに、花を通して命の大切さ、相手を思いやる心を育ててほしい」と、お弟子さんと始めた「こどもいけばな教室」は、今年16人の子どもたちと活動している。

若い頃に、職場の生け花教室に参加したことをきっかけに華道にはまり、その後、京都へ勉強に通って資格も取得。現在も定期的に通い、その技術や教えの研さんに努めている。

「この教室も10年やってきて続けることの大切さを



感じる。活動も浸透し、ここから生まれる子どもとの交流で自分も元気をもらっている」と目を細め、「これからも伝統文化の一つとして続いて欲しい。そのために自分もやれることをできる限りやっていきたい。サミュエル・ウルマンの詩にある『青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の在り方を言うのだ』の一節を胸にね」と話すやさしい笑顔には、たゆまぬ志を感じた。



文化庁伝統文化親子教室事業「みさと伝統文化こどもいけばな教室」主宰。自宅のほかNHKカルチャーセンター、三郷小学校華道クラブ、三郷小学校スクールサポート事業などでも活躍中。池坊華道教授。昭和24年生まれ。

編集後記

◆親愛なる先輩が言っていたこと「年食うと体がいうことを聞かなくなってくる。やれることはやれるうちにやっておく事」
自分もその年になり身につまされている。(M・M)

◆松本城と彦根城を見学する機会を得た。紛争に感染症騒動も収束しない中、時代は変わっても伝え続ける古の栄華の夢の跡に喜びも悲しみも思いを馳せるのは優雅な事なのか。(T・Y)

【公民館講座】

みさと

「包丁研ぎ教室」 ～切れ味抜群！～

三郷公民館で大人気講座の一つである本講座が、7月5日に調理実習室で開かれた。

講師には3年前の開始当初から越前かまや社長の奥村雅彦さんを迎えており、この日も砥石の種類や基本的な使い方、包丁の豆知識やまな板の利用法まで多岐にわたる話を聞くことができた。



砥石の全面を使って、砥ぎカスはそのままで研ぐ

実習で参加者が持参した包丁を研ぎ始めると、講師は会場内を回りながら質問に答えたり、実際に研ぐところを見せたりしてアドバイスをしていた。

イス。参加者の一人は「砥石を買ったが、使い方が分からなかった。良い講座を開催してもらった」と話していた。

最後に講師から「いつでもすぐ手の届くところに砥石を置いておき、月に一度は研いでほしい」と話があった。

この講座は毎回定員を上回る申し込みがあることから、本年度もう一度開催を予定している。



講師の手元を真剣に見つめる

ほりがね

「子ども公民館」

～市内各地の小学生が5講座に学ぶ～

堀金公民館は7月31日、8月1・2日の3日に渡り「子ども公民館」を同館で開催し「けん玉・将棋・折り紙・ドローン・絵手紙講座」の5講座に市内各地から小学生33人が参加した。

折り紙講座に参加した原陽菜さんと内田佑菜さん（共に堀金小2年）は「鶴のポチ袋・ハート鶴・折り羽鶴・紅白鶴・ばたばた鶴など、いろいろな珍しい種類の鶴の折り紙を教わった」と喜んでいました。



「堀金農業体験講座」

堀金公民館は堀金下堀の田圃集会所に併設する圃場で4月から10人余が参加して本講座を開催している。

前期講座として、夏野菜を栽培し、7月29日にトマト・キュウリ・ナス・スイカ等の収穫作業を行った。安曇野穂高に移住して1年の有清綾香さんと沙月ちゃんは「今度は大きなスイカを一人で採ってみたい」と野菜の成長に興味を持ち始めていた。



とよしな

「大人のフィールドワーク」

豊科公民館は5月23日に本講座を国営アルプスあぶみの公園で行った。当日は小雨が降ったり止んだりでの天気、参加者も3人と少なかった。

講師は、お馴染みの三郷昆虫クラブ世話人である那須野雅好さん。講座のメインは「オオルリシジミの見学」である。

雨の日は多く観られるとの事で期待を胸に現地に向かう。展望テラスの先に食草のクララが見える。目指すオオルリシジミが早速



見つかった。やはり、雨の日は動きが鈍く近寄っても逃げない。参加者も思い思いにシャッターを切る。参加者が少ないぶんだけ様々な質問がでた。

穂高から参加した方は毎年この時期に見に来ているとのことで満足した様子だった。大変めずらしい交尾中のオオルリシジミも見られ参加者全員大満足であった。

最後の1時間は、公園管理センターの会議室でオオルリシジミの保護活動の現況などを聞いた。

ほたか

親子自然体験講座

「松枯れ材を使った椅子づくり教室」

穂高公民館は8月4日に本講座を開催した。講師は安曇野里山木工倶楽部の皆さんと市耕地林務課職員。他に職場体験として南安曇農業高校環境クリエイト科の生徒4人が受付や受講者補助を担当。受講者は18人の親子。

最初に講師から松枯れ病について説明があった。安曇野市内は深刻な松枯れの被害が発生している。松を枯らす原因はアメリカから来たマツノザイセンチュウという線虫。この線虫を運



ぶのがマツノマダラカミキリという虫。カミキリが松の枝をかじった跡から線虫が侵入して松を枯らす。安曇野では特に東山の被害が深刻である。

続いて、講師の説明に基づいて松枯れ材を使った椅子づくりの作業をした。作業は予め切断してある木材をネジとボンドで組み立てるというもので、小さな子でも取り組むことができた。講師たちや高校生の補助もあり、どの親子も熱心に取り組んで椅子を完成させた。とても楽しかったという声がたくさん聞こえた。

あかしな

「夏休み宿題お助け隊

ふれあいランチ」

8月9日、明科公民館と「明科いいまちつくろうかい!!」の共催で、子どもたちの夏休みのお悩みを解決するイベントが行われた。

安曇野市内在住の元教員の皆さんを中心とした「お助け隊」が講師役となり、参加した小学生8人と一緒に、夏休み帳やドリル、自由課題など各々の宿題に取り組んだ。午前10時から午後4時までの宿題タイムの合間にはカレーライスのランチタイムや、すいかのおやつタイムも。



特別講師として参加した友禅作家の古根香さんによる「折り紙染め」の体験会では、子ども

たちが思い思いに染めた折り紙を貼った鮮やかなうちわができた。

明科公民館では他にも、長峰山自然体験や昆虫採集など、夏休みならではの子ども向け野外イベントが開催され、いずれも盛況だった。



新任公民館長あいさつ

中央公民館長 二木 正 まさし

4月1日付の人事異動により、中央公民館長を拝命いたしました二木正と申します。どうぞよろしくお願い致します。

ここ3年間はコロナ禍のため、公民館活動の原点である「集う・学ぶ・結ぶ」という本来の活動が制限されてきました。コロナ禍で途切れてしまった人と人とのつながりをとり戻すことが社会全体で急務となっています。

感染症法の分類が2類相当から5類に引下げられましたが、コロナ禍で中断してきた全ての活動を直ぐにコロナ禍前に戻すのは難しい状況です。また、高齢化等により各地区においては、役員のなり手不足や負担軽減が切実な課題となっています。

新しい時代の生涯学習においては、先ずいつでもどこでも学べること、また、いつでもその学びの中に希望する人が入れることが大切だと考えます。どんな時でも誰ひとり取り残されることなく生きがいを感じることができる、このことはコロナ禍を通じ、改めて感じた事です。

これからも公民館に関わる皆様のご意見を伺いながら、多くの皆様が参加してよかったと思える公民館活動を進めて参りたいと存じますので、皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。